

目 次

調査の概要

1 調査の概要	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査項目	1
(3) 調査の方法	1
(4) 調査実施機関	1
(5) 調査回収状況	1
2 調査回答者の特性	2
3 サンプルング	3
(1) 層化	3
(2) 標本分配	3
(3) 抽出	3
(4) 抽出結果	4
4 調査地点一覧	5
5 この報告書の見方	10

調査結果

1 北海道総合計画について	11
[1] 現在住んでいる市町村の住み心地	11
[2] 現在の生活に対する満足度	13
[3] 今後の生活の中で特に大切にしたいこと	15
[4] 2030年（11年後）頃の北海道がどのような社会であってほしいか	20
[5] 家庭や地域で今後特に大きくなると思われる問題	24
[6] 道内の経済・産業の活性化を図るために今後道が力を入れるべきこと	29
[7] 人口減少・少子高齢社会の到来に備え、住みよい地域社会を実現するために今後道が力を入れるべきこと	35
[8] 環境と調和した地域社会を構築するために今後道が力を入れるべきこと	39
[9] 地方自治体が持続的に住民サービスを提供できる主体となるために今後道が特に力を入れるべきこと	44
「北海道総合計画について」の調査を終えて	48

2 安心して暮らし続けることのできる地域づくりについて	49
[10] 現在住んでいる市町村に今後も住みたいか	49
[11] 日々の買物への満足度	51
[12] 理想的な子どもの数	53
[13] 実際に持つつもりの子どもの数	55
[14] 「実際に持つつもりの子どもの数」が「理想的な子どもの数」に比べ少ない理由	57
[14-①] 「実際に持つつもりの子どもの数」が「理想的な子どもの数」に比べ少ない 最も重要な理由	63
「安心して暮らし続けることのできる地域づくりについて」の調査を終えて	65
3 環境問題に関する道民の関心・取り組み状況について	66
[15] 日常生活においての環境に配慮した行動	66
[16] 地球温暖化防止に向けて取り組んでいること	68
[17] 家庭からでのごみの減量化についての考えと取り組み	79
[18] 「3（スリー）R（アール）」の認知度	81
[19] 「生物多様性」の認知度	83
「環境問題に関する道民の関心・取り組み状況について」の調査を終えて	85
4 北海道における再犯防止の取組について	86
[20] 犯罪や非行をした人たちが自分の身近にいる認識	86
[21] 再犯を防止するために必要な取組	88
[22] 企業や事業主が過去に犯罪や非行をした人たちを雇用することに関する認識	92
[23] 犯罪や非行をした人たちの立ち直りに向けた協力意識	94
[24] 犯罪や非行をした人たちの立ち直りに協力したいと思わない理由	96
「北海道における再犯防止の取組について」の調査を終えて	100
5 犯罪のない安全で安心な地域づくりについて	101
[25] 犯罪被害に遭うのではないかと不安を感じる度合い	101
[26] 犯罪被害に不安を感じる要因	103
[27] 地域で起きている犯罪の情報取得の手段	107
[28] 居住地域での防犯活動の状況に関する認識	112
[29] 地域の防犯活動団体への活動参加状況	114
[30] 防犯活動団体に参加していない（参加したことがない）理由	118
[31] 地域を犯罪被害から守るために必要な活動や対策	120
「犯罪のない安全で安心な地域づくりについて」の調査を終えて	127

6 食の安全・安心について	128
[32] 「食育」の関心度	128
[33] 「食品ロス」を減らすために家庭や外食の場での取組	130
[34] 遺伝子組換え作物及びそれを使った食品の安全性に関する認識	136
[35] 遺伝子組換え作物を栽培することによる自然や環境への影響に関する認識	138
[36] 遺伝子組換え技術の試験研究に関する認識	140
[37] ゲノム編集技術を利用した農作物等の研究開発や食品の流通に関する認識	146
[38] ゲノム編集技術の試験研究に関する認識	148
「食の安全・安心について」の調査を終えて	154

資料編

クロス集計表（比率）	155
調査票	231
世論調査実施状況（昭和40年度以降）	255

